

# Pick up!



## 農林水産業の振興



### 千葉県経済の活性化

千葉県経済は、ウィズコロナを前提とした生活様式の変化や、デジタル化の進展、カーボンニュートラルへの取組など、様々な変化に直面しています。こうした中で、次世代を担う新たな産業を生み出し、地域の新たな雇用につながるよう取り組んでいます。

また、成田国際空港の更なる機能強化や、圏央道、北千葉道路などの道路ネットワークの充実により、広域でのヒトやモノの流れが更に活発化することが見込まれます。こうした状況を追い風に、豊かな自然環境などの特性を生かして、千葉ならではの自立性の高い経済圏を目指します。

#### 産業の振興と企業立地の促進

千葉の未来を支える成長分野の振興や、企業立地の促進、募張メッセ等へのMICE誘致の推進、本県の経済を牽引してきた京葉臨海コンビナートの競争力の強化などにより、県経済の活性化を図っています。



県内製造業の集積地 京葉臨海コンビナート

#### 中小企業・小規模事業者の経営基盤強化

県内企業の99.8%を占める中小企業が、経済環境の目まぐるしい変化に対応し、成長していくための支援を行っています。

#### 雇用対策と人材の育成・確保

地域の産業を担う人材を確保・育成するため、若者・女性・高齢者等を対象に、就職に向けた職業スキルや知識の習得を支援するとともに、県民一人ひとりの希望する「働き方」がかなうよう、きめ細かい就労支援を行っています。また、企業における働き方改革を推進しています。



市原高等技術専門学校 自動車整備科訓練風景

#### 観光立県の推進

千葉県の持つ魅力を十分に生かした観光地づくりや効果的なプロモーション活動を推進するとともに、日帰りから宿泊へのシフトを促進し、ワーケーションなどの新たな需要も取り込むことで、県内観光の振興を図っています。



仙台での観光商談会

千葉県は全国でも屈指の農林水産県です。

農林水産業は、暮らしに欠かせない食料の供給はもとより、地域の経済・社会を支える重要な役割を担っていますが、農林水産業を取り巻く環境は、担い手の減少や高齢化、産地間の競争激化などにより厳しさを増しています。本県の農林水産業を発展させ、未来へと引き継いでいくためには、農林漁業者の所得向上を図り、生産活動を継続・継承できるようにしていくことが大切です。

このため県では、次世代を担う人材の育成・確保を図るとともに、ICT等の新技術の活用によるスマート化、意欲的な担い手への農地の集約、地域の水産物を集積する流通拠点漁港の整備など、収益性の高い農林水産業への転換を進めています。

また、県産農林水産物のPRや海外への輸出促進のほか、県産品のブランド力向上、新品種の開発などの高付加価値化についても、市場の動向を捉えながら積極的に取り組んでいます。



整備が進む銚子漁港



育成した日本なし新品種「秋満月(あきみつぎ)」

### 農山漁村の活性化

農林水産業を支える農山漁村は、農地・森林・海辺などの自然環境の保全や伝統文化の継承など、多くの役割を果たしています。豊かな自然環境は、先人から受け継いできた財産であり、地域の資源です。

県では、荒廃農地の発生防止や鳥獣被害対策の強化、藻場・干潟の保全活動への支援などを通じて、農山漁村が有する様々な機能の維持に努めています。また、6次産業化\*を推進し、首都圏に位置する強みを生かして、多くの来訪者が本県の農山漁村の魅力にふれ合える機会を提供することで、都市との交流による農山漁村の活性化を図っています。



地元産野菜を使った農家レストラン



鳥獣被害対策の一例 (イノシシ対策マニュアルの策定)

\*6次産業化…農林漁業者が生産(1次産業)だけでなくとまらず、自ら加工(2次産業)や販売、農家レストランの運営(3次産業)など、経営の多角化を進める取組のこと。

## TOPIC Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games

## 東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシーの活用

### 千葉県内で8競技が開催

令和3年7月から9月に、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、千葉県では、募張メッセで1会場としては最多となる7競技が、釣ヶ崎海岸でオリンピック史上初のサーフィン競技が行われました。

大会に向けて日々努力を重ねてきた選手が、世界最高峰の舞台で、世界のトップアスリートと競い合うその姿に多くの方々心が動かされました。

### 大会に向けた多様な取組と新たな動き

東京2020大会の開催決定以来、県内では、大会後も見据え、企業・団体・大学・行政などが一体となって、国際交流の推進、観光客の受入環境整備、施設や交通拠点のバリアフリー化、パラスポーツの振興、心のバリアフリーの推進、ボランティア活

動への参加促進、魅力発信の強化など、多様な取組を各地で展開してきました。

さらに、サーフィン競技初の開催地となったことを生かした地域づくりや、パラリンピック開催を契機とする様々な分野での障害のある人の社会参加促進、幅広い人材による多様なボランティア活動の展開、文化プログラムの一つとして選定した「ちば文化資産」の活用など、新たな動きも生まれてきています。

### レガシーを活用して本県の持続的な発展へ

県では、こうした取組を大会時の一過性のものとすることなく、レガシーとして県内全域に波及させることで、スポーツ・文化を通じた地域の活性化や、共生社会の実現を進め、本県の持続的な発展につなげていきます。



パラスポーツ体験イベント



オランダ陸上代表選手の書道体験



サーフィン体験会